

(別記様式)

令和2年度 府立桃山高等学校（定時制） 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（ 計画段階 ・ 実施段階 ）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
1 「働きながら学ぶ」という定時制教育本来の意義・目的を正しく認識させ、自主的・計画的に学ぶ生徒を育成する。 2 基礎学力の向上を図る。 3 基本的生活習慣の確立に努める。 4 指導内容、指導方法の工夫に努め、学習意欲を喚起し、教育効果を高める。	成果 (1) 各学年や各分掌と密に連携を取り、安心・安全な学校作りに努めた。また、生徒会活動を大切にし、多くの校内行事を工夫して成功に導くとともに、クラブでも全国レベルでの成績を収めるなど、多様な生徒に対して各方面で教育成果を上げた。 (2) 進路実現に向けて、「キャリア教育講演会」など、早い段階から進路指導の充実にも努めるとともに、各関連企業・機関との連携指導を丁寧に行い、多くの生徒の進路の実現を目指して粘り強く指導した。 (3) 設備面では全日制と併置されている現状において、教務部を中心に校内的な調整を丁寧に行い、教育活動が円滑に進むよう努めた。 課題 (1) 安心・安全な学習環境の確保に向け、問題行動等の未然防止を図るための組織的な取組等を継続するとともに、個々の生徒の状況に応じて自尊心や自己有用感を高め充実した学校生活が送れるよう生徒会や学校行事、クラブ活動等の取組を一層充実させる必要がある。 (2) 希望進路の実現のため、キャリア教育の一層の充実が重要である。そのためには、基礎学力の定着及び基本的生活習慣の確立を図るとともに、クラス担任や教科担当者、関係分掌等が生徒の情報を共有し、個々の生徒の特性に応じた指導方法や指導内容等の工夫を図る必要がある。	1 卒業を目指し、高等学校に学ぶこと、並びに「働きながら学ぶ」ことの意義を理解させるとともに、学校生活に目標・目的を持たせることにより、学校生活への定着を図る。 2 生徒相互に助け合い、励まし合う生徒集団の育成を目指して、生徒会活動を大切にしたい取組を進めるとともに、様々な学校行事の充実に努める。 3 希望進路の実現に向けて、3年間・4年間を見通して、早期より、計画的にキャリア教育を推進する。 4 個々の生徒にきめ細かな指導を通じて、基礎学力の定着と生活習慣の改善を図るとともに、社会性や規範意識の涵養に努める。 5 特別な支援を要する生徒については、外部機関と連携しながら、特別支援会議を中心として支援の内容を明確化、全体化して、適切な指導に努める。 6 平成31（令和元）年度各分掌等の総括を踏まえ、学年部と各分掌や、教科担当とクラス担任の情報交換をさらに密なるものにするるとともに、家庭や関係機関と丁寧に連携を図り、課題解決のための取組を進める。

※ 評価について A…十分達成できた B…おおむね達成できた C…あまり達成できなかった D…ほとんど達成できなかった

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
生徒指導	平和で安全で楽しい学校作りに向けた取組の推進	各学年・各分掌との密接且つ有機的な連携による平和で安全な学校作りに向け、生徒の問題行動の抑止に資する啓蒙的な指導をし、問題行動が生じた場合に迅速且つ適切に対処する。	C		各学年・各分掌との密接且つ有機的な連携については概ね達成できた。生徒の問題行動抑止に関しては今年度は問題行動は極端に少なかったが、重大な問題行動が1件発生したという課題を残した。 新型コロナの影響で1学期の生徒会活動がほぼ飛んでしまい、特に1年次生の学校定着が懸念されたが、2学期以降の生徒会の奮起により学校行事・部活動ともにほぼ例年の軌道に乗せる事ができた。ただ、それらの活動に積極的になれず人間関係形成に課題を残した一部の生徒に有効な手立てが打てなかった。
		生徒が学校に定着できるよう学校生活を楽しいと感じられるものにすべく、生徒会と連携して文化祭を始めとする各行事に積極的に取り組ませ、また部活動を通じて人間関係の幅を拡げつつ活動に対する明確な目標を持たせることにより積極性を培う手助けをする。	B	B	
学習指導	生徒の実態に即した教育課程の編成と実施	多様な観点による学習評価の工夫・改善を図るとともに新学習指導要領を見据えた教育課程編成の完成に向け論議を深める。	A		カリキュラム委員会を計10回開催し、新学習指導要領を見据えた令和4年度以降入学生に係る教育課程編成の一定の完成を見た。今後完成年度に向けて、より一層生徒の実態に即したより良い教育課程となるよう検証に努める必要がある。 生徒に寄り添いながら、基礎的・基本的な知識の定着ができるよう、粘り強く指導を進めた。
	個に応じた適切な学習指導の実践	生徒の学力を的確に把握し、基礎・基本を踏まえた粘り強い指導を実践する。	B	B	
進路指導	個々の希望進路の実現に向けた取り組みの推進	進路意識を高めるため、キャリア教育を充実し、推進する。	B		キャリア教育の一環として、卒業年次生対象の進路説明会を実施し、進路意識の啓発と進路決定までのプロセス、心構えを育成することができた。また、各学年進路講演会を実施し、働くことの意義や大切さ等の職業観や社会人としての対処能力の育成を図ることができた。 支援を要する生徒への個別指導、短大、専門学校の出願書類の作成、模擬面接練習等、進路実現につなげる取り組みを行うことができた。希望進路実現のため、生徒とのコミュニケーションを通して生徒理解力を高め、個別に指導助言できる力、カウンセリング力を高めていかなければならない。
		個々の生徒の希望進路を把握し、その実現に向けて、各学年や各分掌、外部機関と密に連携を図る。	B	B	

健康教育	心身ともに健康な生活習慣の確立に向けた取組の推進	健康上の配慮や支援の必要な生徒に対する指導を組織的に推進していく。	B	B	新型コロナウイルスの感染防止に努めた。しかし、生徒の美化活動に関しては感染防止の観点から行うことができなかった。 学年会と特別支援会議からの情報をもとに支援の必要な生徒に対応した。医療機関や児童相談所、京都府家庭支援センターと連携を図り、学校生活への適応に努めた。 食生活習慣の重要性の啓蒙と基本的な生活習慣の確立に向けて、以下の4項目に取り組んだ。 1 給食便りの発行、さらに1年生はHRで給食のアピールと食育の講話。 2 生活アンケートをとり、生徒の実態を把握。 3 文化祭では、給食と健康について、保健委員会から生徒へのアピール。 4 保健便りを発行し、心身の健康に向けての啓蒙と新型コロナウイルスへの生活面での注意喚起。
		生徒の食生活の実態を把握し、食育の一環として、給食を通じた望ましい食生活習慣の確立を目指す。	B		
事務部	学習環境の充実と安全・衛生を確保するため、施設・設備の充実に努める。	学校運営費予算だけでなく、本庁所管課への予算要望と、本庁各課との調整による予算確保に努める。	B	B	飛沫防止パネル・非接触型体温計等を購入し、新型コロナウイルス感染拡大防止対策に努めた。 定期的な校内巡視により、危険箇所・老朽箇所について早期対応し、また校内対応できない案件については、迅速に業者依頼し、改修を行った。 各分掌からの予算要望書・ヒアリングにより、効果的な予算執行ができた。 学校全体の課題に関する予算執行については、積極的に進めることができなかった。 奨学金等の援護制度を適切に周知し、生徒の修学を援助することができた。
		校内巡視による施設・設備の点検を実施し、危険箇所・老朽箇所の早期発見に努め、改修につなげる。	B		
		学校全体や各分掌の状況を踏まえ、計画的な予算執行に努める。	B		
	個々の生徒の状況に応じて、修学支援に係る援護制度について、適切な対応を行う。	クラス担任との情報交換を密にし、経済的理由により修学が困難になることがないよう、個々の生徒の状況に応じた援護制度についての適切な対応を行う。	B		

学 校 関 係 者 評 価 委 員 会 に よ る 評 価	生徒の学習に対する取り組み姿勢に粘りが見られるようになったり、定期考査以外にも補充等の要望があるのは、生徒の能力が高まっているからである。これは先生方努力の賜であり、今後も生徒の期待に応えられるよう、学習指導に取り組んでいただきたい。 就職した卒業生に対し、離職の現状やその理由等についての追跡調査及び分析を行い、わずかな期間での離職者を出さないよう、得られた情報を在校生の進路指導に生かしていただきたい。 ネットいじめを認知され、事象がエスカレートする前に組織的に対応（解決）いただいたことは、大変ありがたい。問題行動が減少したが、生徒に元気（活力）がないのではないか。元気（活力）があるということも大切である。
次 年 度 に 向 け た 改 善 の 方 向 性	新型コロナウイルスの感染防止対策や人権上の配慮を徹底し、安心・安全な学びの場を確保することが学校で学習を進める上での基礎となる。来年度も継続して取組を進め、学習環境の一層の向上を図ることが必要となる。 個々の生徒へ基礎的・基本的な内容を確実に定着させるためには、生徒の特性等を踏まえた指導を行うことが重要である。ＩＣＴの活用による授業改善や、クラス担任や教科担当者等との情報交換による共通認識の確立が必要となる。 学校行事や部活動等への参加を促し、様々な生徒との交流や経験等を通じて自己肯定感を育み、卒業後の進路について意識を高めさせるとともに、進路実現に向けての学校における体系的なキャリア教育を更に充実させることが必要となる。